

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月26日

事業所名 児童発達支援事業所みらい

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	・活動に合わせて使用する部屋を決めている。	・大型活動遊具を使用できるスペースを確保しながら支援内容を充実できるようにしていきたい。
	2 職員の配置数は適切である	2	2	・保育士が3人で利用児の療育を実施している。	・利用人数が多くなってきており、支援予定が適切な利用日数入れることができないため、職員数を増やすなどの検討をしていく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	1	・支援終了後にはアルコール消毒等行っている。	・定期的に掃除を行うよう徹底する。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	・職員間で話し合いを行っている	・自分の仕事だけではなく、他の職員との連携や情報を共有できるよう、職員の意識を高めしていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		4		・今年度より実施する。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		4		・今年度より実施し、公開する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3	・公開療育を実施し、市内の関係機関の方よりご意見をもらえるようにしている。	・公開療育を実施し、助言をいただいている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		・療育スタッフ研修会、障害幼児研究会等に参加し研修を受けている。	・復命を丁寧に行い、職員間で情報を共有していきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		・児童発達支援管理責任者がアセスメントを取り、関係機関から情報を得ることで、個別支援計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		・子の課題に合った活動を職員同士で相談したり、アイデアを出して検討している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		・職員同士でどのような支援を誰が行うのか、子どもの行動を予測し役割分担について確認している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	・1日支援が詰まっている場合はなかなか振り返りができないこともある。	・1日の終わりには職員同士で振り返りが持てるような時間を設けていきたい。
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		・支援記録を作成し保護者へ配布している。		

関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		・子どもの状態を把握し、モニタリングを定期的に保護者と実施している。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		・発達支援センターと情報を共有している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4		・子が通園している園と情報を共有しながら、保護者や子に対して支援を行っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4		・関係医療機関での助言やアドバイスを受け支援を計画し提供するようにしている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		・支援記録や個別支援計画での情報提供を行っている。	・必要があれば引き継ぎ書を作成し、情報を提供していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		・引継ぎ会に参加している。また、引き継ぎ書を作成しサポートブックに入れるようにしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		・療育スタッフ研修会や、障害幼児研究会に参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4		・地域のこども園に通園している。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	2	・管理者が参加している。	・会議で療育支援の大切さを述べ、事業所の必要性をアピールしていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		・支援終了後保護者と支援を振り返りの時間を設けている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	1	・家庭でできることをアドバイスしている。	・市が主催しているペアレントトレーニングを周知していきたい。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		・配布するときは保護者に丁寧に説明し、同意を得るようにしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		・質問に応じて児発管や担当保育士が対応したり、相談時間を設けじっくり悩みを聞くよう配慮している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1	・今年度は学習会を開催し、保護者の交流を図った。	・保護者が参加できる行事を計画しながら、横の繋がりを深めていけるようにしたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		・保護者から相談があった場合、対応している。	・会報や施設での掲示などで相談の受け入れを周知していきたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		・会報は必要に応じての発行であり、不定期であった。	・定期的に発行し、事業所の活動概要など保護者へ知らせていきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4		・広報誌に写真を掲載する場合、保護者の確認を取るようにしている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		・具体的な言葉を使用したり、視覚的に分かるよう示したり配慮している。	

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	・地域のボランティアの方に手作り教材を作っていただいている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	1	・各マニュアルを掲示している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	2	・職員は施設の訓練に参加している。	・今後、保護者や利用児を対象にした訓練を実施していくようにする。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	1	・保護者から体調について確認を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	・アセスメントを行うときに確認をしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	2		・身体拘束を行う場面はないが、そのような必要がある利用児がいる場合は、保護者と検討をしていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。